

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース  
／曾川 京子

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

1. 教職科目では教育の理論と教育実践の場での実際的な課題等を関連づけて、できるだけ学生が具体的な実践をイメージしつつ原理が理解できるように教材の工夫する。また学生が主体的に取り組めるように、討議や演習などを取り入れて授業形態を工夫する。  
2. 教職実践科目では、学生が学校教育の指導内容の範囲を理解し子どもの発達段階に即した授業内容を構築、展開できるように模擬授業等の演習を取り入れ、教育実践力を養う。

## 2. 点検・評価

①教職科目である「教職論」では、専門職としての教職の視点や、教育公務員としての教師の立場などが、学生に分かり易く理解できるよう資料の作成を工夫し、空理空論に終わらないように実際の事例などもおりまぜて提示した。毎回の授業後に学生からの感想や質問を回収し、質問にはプリントで回答した。学生からの感想では、教員としてのベースを理解する事の重要性を理解したり、教師を目指す事への意欲や、学ぶ事への意欲につながったりといった事が見て取れた。また、教育問題についての討議形式の授業で、学生相互の考えを討議しあう事で、教育に対する自らの思考を深めることができていた。  
②教育実践科目である「学校教育実践Ⅱ」では、子どもの心の発達段階に応じてコミュニケーション力や自分への気づきを促進する授業内容を構築し実践できることを目標に、学級経営とエンカウンターをテーマに学生一人一人が模擬授業を展開する実践を行った。どの学生も熱心に取り組み、自らの省察力を深めつつ実践力をつけることができた。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

1. 学校教育コース3年生の副担任として、学業や学生生活をサポートする。  
2. 学生の進路や悩み等の相談に適宜応じる。  
3. 教育相談のインテークに学生を陪席させ、ケースを担当するに当たってのアセスメントを共に考えるなど、カウンセラーとしての訓練に役立てる。

## 2. 点検・評価

- ①学校教育コース3年生の副担任として、授業の中できめ細かく学生とコミュニケーションを図り、レポート等にも必ず朱筆を入れ、実践を励ました。
- ②大学院臨床心理士養成コースの就職担当窓口として1年間を通じて就職支援室と連携を図り、情報提供や就職相談に応じた。11月に行われた就職支援室の就職研修会では、臨床心理士養成コースのM1院生対象の初の取り組みにも参加し、院生の就職へのモチベーションを高めることができた。2011年度末当該コースの就職率は92%である。
- ③心理・教育相談室でのインテークに大学院生を陪席させ、41のインテーク行った。

## Ⅱ-2. 研究

### 1. 目標・計画

学校教育における児童生徒の様々な心理的な問題にどのように対処できるのか、特に学校不適應に対する支援のあり方を、教育相談の視点から研究する。

## 2. 点検・評価

本学の心理・教育相談室で多くの相談に関わり、不登校や非行など様々な子どもの不適應に対応した。不適應をきたした子どもへのプレイセラピーなどの関わりの有効性や、子どもを取り巻く主たる養育環境である保護者への心理教育相談やカウンセリングで子どもたちが心の健康を取り戻していく数多くの事例に関わることができ、学校教育の現場でも、子どもや保護者を支えていくことがやはり重要であることの示唆を得る事ができた。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

1. 本学の心理・教育相談室の運営がスムーズに行えるように、配慮して関わる。
2. 臨床心理士養成コース会議や部会議での運営に参画し、その任務内容を推進する。

## 2. 点検・評価

- ①心理・教育相談室を利用されるクライアントへの支援と院生のカウンセラー養成とが、うまくかみあうように、ケース数の確保を心掛けて相談室運営に関わった。
- ②部会議には体調不良で2回ほど出席できないことがあったが、後は全て参加した。また毎週のコース会議も殆ど出席した。昨年度末に留任が決まったため、年度当初委員会は割り当てがなかった。しかし、4月当初より、実地教育専門部会に所属し、教員インターンシップでは地域の担当小学校へ出向き、学生の実習を推進した。また、10月より、学生支援委員会の委員として加わり、任務内容の推進にあたった。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

1. スクールカウンセラーとして附属学校に赴き、学校と連携しながら、児童・生徒を支援する。
2. 適応指導教室や地域の小学校等への大学院生のボランティア派遣を通して、地域社会の教育機関と連携を図る。

### 2. 点検・評価

- ①毎月第4週以外の月曜日の午後附属中学校へスクールカウンセラーとして赴き、生徒や保護者、また教員の支援を行った。
- ②徳島市、藍住町、松茂町、阿波市、小松島中学の適応指導教室、藍住西小学校へ、臨床心理士養成コースの院生を心の支援ボランティアとして派遣し、それぞれの機関と連携を図り、院生の活動を促進した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ①臨床心理士養成コースの一員として、微力ではあったが授業及び院生のスーパーバイズやインタークの陪席などを通して院生の指導にあたった。
- ②また心理・教育相談室の運営に携わり、ケース数の確保及び相談者への支援に努めた。
- ③学部の教員養成に関わる授業では、自らの教育現場の実践を踏まえて将来教師として身につけておいて欲しい観点を吟味して工夫した。